

令和 4 年度 大阪市立北区北老人福祉センター 事業実績報告書

施設概要

施設名	大阪市立北区北老人福祉センター 愛称：キタロー
所在地	大阪市北区同心 1 丁目 5 番 2 7 号
施設規模	鉄筋コンクリート造 4 階建のうち 1 階及び 4 階の一部 延床面積 2,673.61 m ² のうち 790.87 m ² (堀川地域集会所 84.02 m ² 含む)
主な施設	大広間、集会室、講習室、談話室など
市が設定した数値目標	センター利用者向け実施する満足度調査で、「満足と回答される方」の割合を 84.6%以上とする。(市内 26 館における過去 3 年間の平均) ※感染症拡大を防止する措置のため、延べ利用人数・登録人数は目標としない。
令和 4 年度満足度	83.6% (188/225) ※母数を明記すること。

指定管理者

団体名	社会福祉法人大阪市北区社会福祉協議会
事務所の所在地	大阪市北区神山町 1 5 - 1 1
代表者	会長 小玉 始
指定期間	平成 3 1 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日
報告対象期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 3 1 日
担当者	北区北老人福祉センター 館長 大坪 信仁
連絡先	(0 6) 6 3 5 2 - 7 0 2 5

1 指定管理業務の実施状況

(1)施設の運営方針

①地域福祉の拠点として、高齢者の孤立防止の取り組みを図った

- ・高齢者の居場所を充実
- ・閉じこもりがちな高齢者の参加を促進

②高齢者自らが地域福祉の担い手となるよう、人材の育成に努めた。

高齢者が健康で生きがいをもって自立した生活が送れるよう支援する

- ・多彩な教養講座や行事を通じて生きがい探求の場を提供
- ・サークル活動や同好会などの自主的な活動を支援
- ・高齢者の社会参加を支援するため、各種ボランティア養成講座を共催し活動につなげる
- ・高齢者のボランティア活動の拠点となるよう取り組む

住民相互の助け合いのシステム「まちともサービス」と連携して、ボランティアや地域活動者の層を拡大し、高齢者が高齢者を支える仕組みを強化・充実を図る

③介護予防や認知症予防の活動に取り組むとともに、普及・啓発に努めた。

- ・専門性の高い職員による日常的な相談に対応
- ・認知症予防のため、閉じこもりがちな高齢者を積極的に施設利用へつなげる
- ・認知症啓発の取り組み

(2)施設の維持管理

〔定期的保守点検と法定点検〕

- ・電気設備巡視点検（年 12 回）
- ・自家用電気工作物法令点検（年 1 回）
- ・非常用発電機 C 点検等（年 1 回）
- ・消防用設備等点検の実施（年 2 回）
- ・自動ドア保守点検（年 4 回）
- ・エレベーター保守点検（年 24 回） 内、法令点検 1 回/年
- ・受水槽及び高架水槽の清掃・水質検査（年 1 回）・簡易専用水道定期検査（年 1 回）
- ・消火栓ホース耐圧試験等（1 回/3 年）
- ・施設管理手引きに基づく建築物及び設備総合自主点検の実施（年 2 回）

〔その他〕

- ・高架水槽異常点検および仮設電源工事
- ・受水槽警報動作不良修理
- ・敷地内植栽剪定
- ・床カーペット洗浄および空調・換気扇の洗浄
- ・1 階女子トイレ蛇口水漏れ修理
- ・1 階女子トイレ水流不良修理
- ・消火管漏水調査

(3)職員の配置状況

施設長 1 名、嘱託職員 3 名（3 月 1 名欠員）

(4)感染症拡大を防止するための対策等の状況

職員は、十分な睡眠などで自己の健康管理をしっかりとすることで、自己のみならず、他人に感染させないように徹底する。

センターとしては「3つの密」の回避、マスク着用、換気、手指消毒用アルコールによる消毒を徹底し、センター事業及びサークル活動に関しては、大阪府の感染状況を踏まえた北区の地域活動の判断指標に従い、活動を行ってまいりました。

職員の感染予防対策 ー職員が感染源とならないー

- ①感染防止対策（マスク着用、咳エチケット、手洗い、アルコール消毒等）を徹底する
- ②感染リスクを回避する行動をとる（職場以外でも三密の回避）
- ③出勤前（家庭）・勤務中にも体温測定を行う
- ④昼食時の会話の禁止
- ⑤大阪市高齢者施設職員向けの定期的（4 週間に 4 回程度）な PCR 検査を実施

利用者の感染予防対策

- ①館内でのマスク着用
- ②自宅で検温し、発熱・体調に問題がある場合は利用を控える。また、同居で体調不良（発熱など）があれば念のため来館を控えていただいた

③入館/入室前のアルコール消毒と検温の実施

センターでの活動における利用者の感染予防対策

①センター共有部分及び使用備品の1日1回以上の消毒

②常時換気。不可能な場合は1時間に2回(10分)の換気

CO2モニターを利用し、室内の二酸化炭素濃度、温度と湿度の3つをモニターに換気のタイミングが見える化。

③大阪市、北区の方針に従い、マスク着用してできないサークルは利用を中止する。(センター事業も同様)

④飲食の禁止(水分補給を除く)

⑤部屋定員の50%以下の人数での活動

⑥囲碁用飛沫防止シートの設置

(5)危機管理・安全管理(事故防止等安全対策、災害等緊急時の対応への準備)

利用者を含め、北区総合福祉センターとして、消防、災害避難訓練の2回実施(10/28・3/14)した。また、同時に消火器の使い方の講習と実演を行い、緊急時に対応できるように努めた。

災害発生による緊急時に備えて「大阪市行政オンラインシステム」を利用した被災状況の伝達について、迅速かつ正確に実施するための伝達訓練の実施。

個人情報の保護の観点から、パソコンの暗証番号の定期的な更新、利用者台帳、サークル名簿や連絡網の施錠保管の徹底

職員及び法人の緊急連絡網の常備と北区総合福祉センターの入居団体の緊急連絡網構築

2 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用 人数	1,538	1,514	1,640	1,481	1,090	1451	1,683	1,518	1,263	1,261	1,139	1,444	17,022
登録 者数	249	18	21	10	6	10	4	9	6	3	1	4	341

・令和4年度は感染症拡大防止のため、イベント・サークルの参加人数制限(卓球台減数、囲碁盤減数など)を継続。オカリナサークルなど、マスク着用できないものは活動休止を継続。

年度別利用者数推移

		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
男性	利用者数	5,279	3,611	3,257	10,487
	男性割合	31.0%	37.8%	39.6%	35.6%
女性	利用者数	11,743	5,936	4,967	18,954
	女性割合	69.0%	62.2%	60.4%	64.4%
合計利用者数		17,022	9,547	8,224	29,441

年度別利用者年代比率

	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
60～69 歳	6%	6.3%	7.6%	13.3%
70～79 歳	54.4%	49.6%	48.0%	48.6%
80 歳～	31.4%	29.1%	24.6%	26.5%
その他	8.2%	14.9%	19.8%	11.6%

3 実施事業(1)事業報告

①事業計画 (P)

- ア 高齢者福祉の拠点づくり・孤立防止
- イ 人材の育成・生きがいつくり
- ウ 介護予防・認知症の啓発

3つの重点方針に則り事業を展開し、より一層充実した内容となるよう PDCA サイクルの徹底を図ってまいりました。アンケート調査などから得た結果や、利用者ニーズを把握し、今後も可能な限り迅速に事業計画に反映していくよう努めます。

②活動内容 (D) ※ (様式 2) 令和 4 年度北区北老人福祉センター事業一覧 (実績) に記載

ア 高齢者福祉の拠点づくり・孤立防止

囲碁盤とスペースを開放する「囲碁広場」は、高齢者の拠点づくりとして非常に有益である。コロナ禍で台数制限を行った時期もあったが、ほぼ毎日高齢者が来館し囲碁で他の高齢者と親睦を図っている。サークルではないため、新たな知り合い作りにも役立っている。けがをした高齢者が車椅子で来館を続けた例もあり、孤立防止の効果が出ている。令和 4 年度はまだコロナの影響が続いたため、ふれあい喫茶を開設できなかった。今後も感染対策の状況を踏まえ、開設のチャンスを待ちたい。

イ 人材の育成・生きがいつくり

自主的な地域福祉活動 (ボランティア) の支援

スマホのボランティア講師養成塾の修了生 (キタスマ) は、会員同士のコミュニケーションと知識の充実を目的した勉強会をサポートし、センターでの「LINE 講習会」には講師のサポート役として活躍していただいた。また、毎月開設した「スマホ相談コーナー」では、利用者の方のスマホに関する質問に親身に、かつ丁寧に回答していただいた。

「キタロー会」では、ボランティア活動の調整会議を月 1 回定例で行い、今後期待する活動などの共有に努めた。キタロー会の活動普及と会員募集を積極的に行った。

おおさか・きた・おもちゃ病院 (キタロー支部) 月 1 回おもちゃ修理事業の従事ボランティアドクターを支援し、利用される方々には、いつでも入院・治療できる体制をとった。

生きがいつくりの講座や事業

高齢者にもスマホが普及する中、他者とつながる機能を習得することで、活動意欲を高めることができるとの考えから、「LINE 講習会」を年間 2 回、1 セット 2 回（基礎・応用）で計 4 回開講した。申込み時点から好評で、高齢者の IT 機器や SNS への関心の高さを再認識することになった。

「素人寄席」や「コンサート」など日々の生きがいになる演芸や芸術鑑賞は恒常的に人気が高いが、体験型のイベントにも人気が集まった。特に「和太鼓体験会」は当初計画になかったが、申し込みが殺到し、イベント当日も大いに盛り上がった。音楽と運動と伝統芸能を実体験することは、脳の活性化にもつながり、高齢者には有用なイベントとなった。

健康・体力づくりに繋がる事業としては「歩こう会」を年間 6 回開催した。コロナ禍で受け入れ先にも制約がある中、単なるウォーキングだけではなく、知識や情報を得る場としても活用した。特に「天王寺動物園」や「日本銀行大阪支店」など、ガイドの解説を聞きながらの散策は知的好奇心も刺激し、大変好評であった。

ウ 介護予防・認知症の啓発

楽しく体を動かす機会を作っていただくため、大阪市北区在宅リハビリテーション連絡会のご協力のもと開催された、北区社協発のシニア向け体操「北ワハハ体操」の体験会を実施した。

地域の薬剤師さんが、ZOOM を利用して健康についての有益な情報を発信する「健康フェア」は、スマホの有効活用にも役立っている。

本年も、薬剤師のグループ「OGM ラボ」と連携して、「健康を考える会」を開催し、血管の老化や骨密度/筋肉量の測定/ロコモチェック、そして、お薬手帳持参の上での薬の個別相談を実施した。

③チェック (C) (成果、課題)

ア 高齢者福祉の拠点づくり・孤立防止 (成果/課題)

居場所づくりの充実と孤立防止	成果	3 年度はコロナ禍で活動休止期間が長くあったが、4 年度は感染症対策を徹底した上で、活動を再開した。サークル活動で定期的を訪れる高齢者はもちろん、様々な企画で来館者も徐々に増え、コロナ禍が長引く中、高齢者が訪れたい場として再び定着してきた。
	課題	囲碁広場やバンパーなど交流の場が復活した半面、飲食をともなう場の提供は依然として難しく、ふれあい喫茶は開催できなかった。また、対面形式の事業も開催できなかったものが多く、個別相談会など悩みや困りごとを聞く場をあまり設けられなかった。制約がある中で利用者は戻ってきてはいるが、男性の割合は依然として低かった。

イ 人材の育成・生きがいつくり (成果/課題)

人材の育成	成果	キタロー会（センターボランティア）は、「歩こう会」の引率支援、「作品展」「いきいき公演会」の受付、実習生との世代間交流など、様々な場で活躍いただいた。キタスマ（スマホボランティア）は、毎月「スマホの相談コーナー」で回答者をお願いし、同年代の方々にとって質問しやすい雰囲気を作っている。1 月・2 月には 2 期生の養成塾も開講し（会場：大淀 C）、有用な人材をさらに増やすことができた。
-------	----	---

	課題	<p>キタスマ（スマホのボランティア）の活動の場が限定的になっており、定例会・勉強会の参加メンバーも固定化されてしまっている。</p> <p>4年度実施のアンケートによると、興味のあるボランティア活動として「イベントの手伝い」「園芸・緑化活動」「ふれあい喫茶等の運営」の順になっている。この結果をもとに、高齢者の方にボランティアとして活躍する場を提供できないか、工夫したいと思う。</p>
生きがいづくり	成果	<p>IT機器に関するアンケートでは、「LINE」「YouTube」「スマホ決済」が興味の高い対象になっている。年2回（全4回講義）開催した「LINE講習会」は、その後の感想アンケートでも「わかりやすい」等好評であった。</p> <p>「和太鼓体験会」や「ボールペン講座」「苔玉づくり」等体験型イベントは、申込み時点から好評で、年6回開催した「歩こう会」と合わせ、コロナによる鬱屈した気分から転換しようとする変化に応えることができた。</p>
	課題	<p>4年度は活動を再開したとはいえ、感染対策下の運営であったため、イベント等にも人数制限があった。そのため、毎回参加者の顔ぶれが似たものになりがちであった。</p> <p>「LINE講習会」は好評であったが、もっと初歩的な段階で止まっている人が多い。コロナ後についてのアンケートで、「外出の頻度が減った」「人と話す機会が減った」という回答が多かった。この状況の改善策を考える必要がある。</p>

ウ 介護予防・認知症の啓発 （成果／課題）

介護予防と認知症の啓発	成果	<p>北ワハハ体操は、高齢者にとって気軽に楽しくどこでもできる体操として、今後センターではもちろん地域でも広めていける体操であると感じた。</p> <p>薬剤師の方が主催する「OGMらぼ」と協力し「オンライン健康フェア」と「健康を考える会」を開催し、健康に関する有益な情報の提供や、健康相談を行うことができた。特に「健康を考える会」は骨密度測定や個別相談などが好評で、大勢の方が参加した。</p>
	課題	<p>年度の前半に予定していた雪印やヤクルト等の「食育セミナー」がコロナの影響で開催できなかった。</p> <p>キャラバンメイト認知症サポーターのうち2名が退職したため、現在1名になった。そのため養成講座がなかなか開催できない。</p>

④改善策 (A) （次年度に向けた改善内容）

全体

コロナ対策が転換点を迎えるにあたって、メリットになる部分を活用する（対面式イベントの増、人数制限の緩和、館内飲食の解禁等）。

ア 高齢者福祉の拠点づくり・孤立防止

感染症対策について、行政の新たな意向の下、高齢者の方の来館意欲を向上させる状況を作りたい。気楽に立ち寄れる「ふれあい喫茶」の実施や、困り事や悩み事を相談できる各種個別相談会の頻繁な

実施など。また、男性の高齢者が興味を持つようなイベントを企画したい。

イ 人材の育成・生きがいつくり

人材育成

アンケート結果からも、ボランティア・地域活動に関しての関心・興味を持っていただける講座やイベントを計画していく。

- ・スマホのボランティア講師第Ⅰ・Ⅱ期生（キタスマ）の地域でのボランティア活動支援
- ・北区オレンジチームとも連携し、認知症サポーター養成講座を開催する。
- ・アウトリーチの活発化（サークル活動支援等）
- ・まちともサポート会員養成講座や介護予防ポイント事業の開催
- ・キタロー会（ボランティアの会）の活動普及と募集

生きがいつくり

感染対策変更後の人数制限を見直し、一人でも多く参加できる状況を作りたい。また、IT 機器や SNS については、もう一度基本に戻り、多くの方に基本操作を覚える場を提供したい。「外出の頻度が減った」人、「人と話す機会が減った」人が参加したいと思う魅力的なイベント、特に継続的な外出のきっかけになるようなイベントを考えたい。告知方法としては LINE の公式アカウント使用を継続し、直接的に情報を発信したい。

ウ 介護予防・認知症の啓発

アンケートではコロナ後「体力が落ちた」と答える人も多かった。毎週火曜日と金曜日に行っている「百歳体操」は継続していく。また、「北ワハハ体操」は「テンポが速くて難しい」という声もあり、機会を見つけては理学療法士などの講習会・体験会を開きたい。

感染症対策の変更に伴い、「食育セミナー」なども活発に行っていきたい。「体力」「知力」維持の実践だけではなく、「食による健康」の学習の場を提供していきたい。

(2) 平等利用の確保

大阪市在住で 60 歳以上という条件に当てはまる方は、利用申し込みを受け付けている。センター便り、HP だけからの受付だけでなく、「社協だより」や「わがまち北区」の掲載からの受付の枠を設定して対応に応じた結果、新規利用者が増えたイベントがあった。

「歩こう会」は年間 6 回行ったが、歩行に不安のある方も、行程の事前説明をした後、申し込みを受け付けた。また、不慮の事故が起こらないよう、複数の職員の引率だけでなく、「キタロー会」のボランティアの方にも引率をお手伝いいただいた。

人気のセンター事業は、十分な周知期間を設けるため、センター便り発行日から申し込みまでの期間を十分とり、申し込みが平等に行えるよう配慮し、受付方法も先着順だけでなく抽選にする方法も取り入れた。また、申込み人数も通常 2 名までのところを、人気の事業は本人のみ 1 名の申込みにした。

(3) 利用者サービスの向上策

一人ひとりと挨拶を交わすよう心がけ、利用者の名前を呼びながらコミュニケーションを大切にし、いつでも気軽に立ち寄れる施設の雰囲気づくりのための対応を行った。

アンケート調査や日々のコミュニケーション対応、そして、毎月のキタロー会で利用者のニーズを探り、積極的に環境整備に取り組むとともに、リクエストの多いイベントなどは許容範囲で定員を増やすなど、ニーズに応じて臨機応変に対応した。また、毎年、アンケート結果ならびに要望事項のフィードバックは、サークル代表者会議及び掲示板での公開に努めた。

地域の関係機関・団体で構成する「施設運営委員会」の意見や、サークル利用者で構成されている「サークル世話人会」を定期的開催し、利用者や関係者の意見・提案・要望、また、苦情や不満など、真摯に受け止め、大阪市や関係機関と連絡調整のうえ、遅滞なく施設運営に反映させた。

センター職員には人権やコンプライアンスに関する研修を定期的を受けさせ、幅広い知識と自覚を持って利用者へ接してもらっている。また、毎朝の朝礼、月一度の職員会議で、各自の情報を共有し、利用者に対するサービス向上につなげている。

(4) センターの利用促進策

- ・地域社協の協力により、地域のマンション管理組合に老人福祉センターの周知とセンター便りの掲示や回覧。
- ・センターだよりの内容をより充実、チラシ・ポスターの工夫。
- ・北区広報紙「わがまち北区」にイベント掲載依頼、区社協だよりに紹介記事掲載。
- ・センターホームページのきめ細かな更新やQRコードの作成、そして、LINE公式アカウント（友だち登録108名）によるタイムリーな情報発信の実行。

(5) 利用者からの苦情・意見・満足度の把握

年に1度、利用者アンケートを実施し、利用者満足度の調査と電子機器で学びたい内容などの把握に努め、結果を即座に反映させた。

センター事業終了後のアンケート（主に新規イベント中心）や「ご意見箱」の設置など、利用者からの意見や要望の把握に努めた。

1. 令和4年度利用者アンケート集計結果（満足度調査と電子機器で学びたい内容結果）

満足度調査（やや満足以上）

質問項目	令和4年度	令和3年度	差異
総合満足度	83.6%	90.6%	-7%
職員対応	87.1%	93.7%	-6.6%
サークル活動	87.1%	87.4%	-0.3%
講習会	80.7%	82.5%	-1.8%
体操	77.8%	85.1%	-8.6%

※有効回答者数 279 人／男性 56 人(20.1%)／女性 223 人(79.9%)

全体に満足度が令和3年度を下回る結果になっているが、令和4年度は活動休止期間が終わり、感染防止の制約下での運営になったことが影響している可能性がある。ただし、今後活かせる点がないか、例えば体操事業の運営方法など改善点を考えたい。

電子機器で学びたい内容

順位	項目	男	女	合計
1	LINE	9	36	45
2	YouTube	11	24	35
3	スマホ決済	8	25	33
4	メール	7	19	26
5	カメラ	4	18	22
6	zoom	6	15	21
7	HP 閲覧	9	11	20
8	料金・その他	6	16	22

※複数回答可

アンケート結果を反映し、LINE の講習会を年 2 回（各 2 回講座）行った。

2. センター独自アンケート（新規イベント中心）実施

北ワハハ体操について（アンケート回答数 24 名）

1) いかがでしたか？

- ① 楽しかった 20 人
- ② 普通 2 人
- ③ よくわからなかった 0 人

2) 北ワハハ体操をした後の体の調子はどうですか？

- ① 気持ちいい 21 人
- ② どちらでもない 0 人
- ③ しんどい 1 人

3) ご自宅でもできそうですか？

- ① はい 18 人
- ② どちらともいえない 4 人
- ③ いいえ 1 人

4) ご意見やご感想等がありましたらお聞かせください。

- ・とても楽しく運動できた
- ・リズムが良く体が動かしやすい
- ・テンポが少し早いと感じる
- ・歌（「笑いの花束」）が楽しく、好きになった

北ワハハ体操は今後も積極的にセンターにて実施するとともに、地域でも広める活動を北区社協と共に行う。

- 3.ご意見箱を設置し、投稿があった場合には、職員会議にて対応を協議した。
(バス旅行の再開など)
4. その他：アンケートや苦情・意見に関するフィードバックは、サークル世話人会でアンケート集計結果を説明し、センター掲示板にフィードバック内容を掲載した。

4 地域との連携・人材育成

(1) 地域の関係団体・施設との連携

- ・北区社会福祉施設連絡会や北区リハビリテーション連絡会との連携や協働による事業の開催
- ・地域薬剤師との「健康を考える会」の開催
- ・同一建物に入居する4団体による北区総合福祉センター入居団体会議の開催。(年6回) 消防訓練(年2回)
- ・「趣味の作品展」で地域住民も周知し、様々な年代の人に来館して頂いた。
- ・北区の看護専門学校実習生の受入

(2) 人材育成・ボランティア活動支援等

- ・高齢者の生きがいづくり、社会参加を支援するため、センターでボランティアの養成につなげる。キタロー会をはじめ、有償ボランティア活動「まちともサービス」と連携して、活動者の層を拡大し、高齢者が高齢者を支える仕組みを強化。
- ・センター職員(キャラバンメイト)による、認知症サポーター養成講座の実施とサポート
- ・キタスマ(スマホのボランティア講師)の勉強会の開催や活動場所の提供・相談会の開催を支援。

5 その他

(1) 職員研修の実施状況

日 時	場 所	人 数	テーマ 及び 講師	研修方法	時間数
9月9日 9月29日	北区在宅サービス センター	2	普通救命講習 大阪市北消防署	講 義	2
9月13日 9月14日	北区在宅サービス センター	4	大阪市社会福祉協議会 職員研修 「地域共生社会の実現と権利擁護支援」 弁護士 青木 佳史 氏	講 義	2
12月13日 12月15日 12月16日	北区在宅サービス センター	3	北区社会福祉協議会 人権研修 「DVと児童虐待の関係について」 社会福祉士・保育士 内閣官房子ども政策参与 辻 由起子 氏	講 義	2
2月28日 3月1日	北区在宅サービス センター	3	大阪市社会福祉協議会 職員研修 「コンプライアンスの基本と個人情報の取扱いの留意点」 中央労務事務所特定社会保険労務士 米津 加代子 氏	講 義	2

(2) 個人情報の保護・情報公開について

- ・知り得た個人情報の取扱いに対しては、細心の注意を払っている
- ・情報発信の際は、ファックスで個人が特定できる項目はマスキングし、郵送する際には誤送付のないよう複数の担当でチェックを行っています。
- ・職員間においても日頃から個人情報に対する意識啓発に努めている。
- ・大阪市北区社会福祉協議会「個人情報保護規程」・「個人情報取扱運用細則」
- ・大阪市北区社会福祉協議会「個人情報保護に関する方針（プライバシーポリシー）」
- ・大阪市北区社会福祉協議会「コンピューターシステムの運用管理に関する規程」

(3) 職員の労働条件の確保・環境への配慮

- ・法令の遵守 再生紙（節税など）・職員一人一人が環境保全の意識を高め、省エネルギー対策及びリサイクルを促進した取り組みを実施。
- ・大阪市社会福祉協議会・区社会福祉協議会は地域福祉を積極的に推進するにあたり住民主体の理念のもと、担当業務によらず、多様な主体との連携・協働に向け、社協職員として共通の価値観や基

本的な考え方を共有するため、職員行動指針を新たに定め、その方針に沿って職員は行動を起こしている。

- ・再生紙の使用を基本として両面コピーを心がけ、使用済み用紙の裏面利用に努めた。

6 収支決算状況

(単位：円)

収 入 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	業務代行料	大阪市からの業務代行料	18,811,000	18,811,000
	雑収入等		300,000	60,410
収入合計 (A)		—	19,111,000	18,871,410
支 出 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	人件費	職員 4 名分	14,100,000	13,251,530
	物件費	事業費、管理費	5,011,000	4,165,431
支出合計 (B)		—	19,111,000	17,416,961
収支 (A) - (B)			0	1,454,449

【計画と決算の差額の主な理由】

- ・上半期のセンター事業中止に伴い参加費収入の減少
- ・老朽化に伴う維持管理にかかる業務委託費の増加
- ・エネルギーコスト上昇による光熱水費の増加

【経費節減のために主に取り組んだこと】

- ・コピー・印刷は再生紙を利用するとともに、出来る限りカラーを 2 色刷りに切替え節約に努めた
- ・必ず複数業者による比較見積もりで、安価に購入できるように努めた